

令和8年度「いわて新農業人チャレンジファーム」第12回研修を開催しました

岩手県農業公社就農支援部では、令和8年8月7日（金）、8日（土）に雫石町南畑のコテージむらにおいて、第12回研修を行いました。

講義では、野菜の生理障害を中心に学び、その発生原因や具体的な対策、だいこん栽培の留意点について理解を深めました。受講生はこれからの栽培に活かそうと、指導員の解説へ熱心に耳を傾けていました。

実習では前回までに施肥や耕運を済ませていたため、今回は個人管理用の5mの畝立てからスタート。完成した畝へだいこんをは種し、かん水ともみがら散布まで仕上げました。

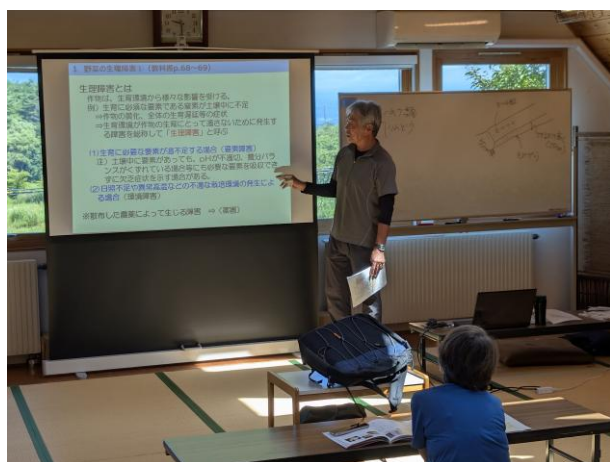
ほかにも、なす、ピーマンの収穫やねぎへの追肥・土寄せ等、盛りだくさんの内容でした。

両日ともに最高気温が30℃を超え、農作業に

は過酷な環境下での実習となりましたが、適宜水分補給と日陰での休憩を挟みながら、熱中症対策を万全にして実習に臨みました。

実習中、受講生のみなさんは仲間同士で色々な話を交わし、声を掛け合いながら前向きに作業を進めていました。その良い雰囲気のおかげか、トマトの管理作業では手際が驚くほどスムーズになり、前回までの研修と比べても、作業スピードと正確性がぐんと向上し、目に見えて成長を感じることができました。

次回の第13回研修は、8月21日（金）、22日（土）に同会場にて、外部講師から「いわての果樹栽培」についての講義のほか、はくさいの定植や実習野菜の栽培管理作業などを行う予定です。



講義の様子



秋野菜栽培に向けて畝立て作業する受講生



秋野菜の栽培畝へだいこんをは種する受講生



実習野菜の生育状況を説明する指導員（右から2番目）